

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2473100101
法人名	有限会社 介護センターみつわ
事業所名	グループホームみつわ
所在地 (電話番号)	南牟婁郡御浜町志原1698-50 (電話) 05979-2-4055
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 2 月 19 日(木)

【情報提供票より】 (H21年1月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤 10 人, 非常勤 0人, 常勤換算 7,8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	28,000 円	
敷 金	有(円) <u>無</u>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(1 月 30 日現在)

利用者人数	16 名	男性	7 名	9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名	
要介護3	7 名	要介護4	4 名	
要介護5	名	要支援2	名	
年齢	平均 86 歳	最低	82 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	須崎医院、井上歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地から離れた場所に位置し、周囲は田んぼやみかん畑が広がる静かな地域である。「ゆったり自由に過ごせる空間作り」を基本理念として、建物も平屋作りのゆったりした造りとなっている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との付き合いを深める点や、運営推進会議の定期化などについては一定の改善努力をされているが、災害対策や苦情等の反映、ターミナルケアの取り組みなどについてはなお一層の努力を期待したいところである。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は一人の担当者だけでなく、それぞれの持ち場からの意見を集約して最後に担当者がまとめる作業をしているので、みんなのものになっている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3ヶ月に一回は開催するようしており、前年度より、メンバーも増えた。家族の代表も参加しており、町会議員や基幹病院のケースワーカーなどにも参加してもらって、より多くの人に事業所のことを理解していただけるように取り組んでいる。</p>
重点項目 ②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部7・8)</p> <p>意見箱を事務所に置いてはいるがなかなか意見は反されにくく、意見や苦情等は主として管理者が窓口となって聞きとっている。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の人たちに事業所へ来てもらうばかりでなく事業所のほうからも積極的に出向いていくようにし、自治会の役員を受け持ったり地域の運動会の準備に参加したりして、少しずつ努力をしている。</p>
重点項目 ④	

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人に優しい生活空間作り、ゆったり自由に過ごせる空間作り」は、2～3年前みんなで基本理念として決めた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの場を利用したり、日々の介護の場面場面で確認し合うようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に出向いていくよう努力し、自治会の役員を引き受けて地域の運動会の準備に参加したり、事業所へも来てもらったり、関わりを深めていっている。地域の人により深く事業所のことを理解してもらおう上で大変役に立っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はそれぞれの担当者からの意見を反映するように取り組んでいる。外部評価での改善項目についても反省材料として、みんなで改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成メンバーを増やし、3ヶ月に一回は開催するようにしている。運営推進会議を経て事業所のことをより広く理解してもらえる機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターを主とした窓口にして連携を深めている。職員研修等に力を借っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、電話でする場合が多い。毎月、請求書等を送る際、職員と本人と一緒に近況報告の手紙を書いて同封したりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の受付は、窓口を管理者としている。しかし、苦情は一度もない。	○	意見、不満、苦情などが外部へも表出できるように、国保連合会や町担当課などの相談窓口についても本人や家族に情報としてきちんと提供することが望ましい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を防止するために待遇改善に取り組んだ結果、離職、異動はこの一年間なかった。	○	幸いこの一年離職、異動はなかったが、利用者一人ひとりに対し、主としてかわる担当者を決めているシステムの中では、今後、離職や異動があった場合は、速やかに利用者や家族に報告をされ、利用者のダメージを最小限にとどめられることを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、内部での研修の取り組みなど職員の資質の向上に努めている。資格取得についても出来るだけの援助をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会には参加しているが、地域での交流はされていなくて、今後の検討課題としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入所は希望があれば行える体制作りはしている。本人、家族とよく話し合い、納得の上で利用してもらるようにしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>看護師の経験者や、農作業に詳しい人など、利用者の得意な場面でいろいろ教わるが多く、支えあう関係を実感している。</p>	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の介護の中で一人ひとりの特性を把握し、生活の場面の中で表出される希望や意向の把握に努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者一人に担当者がついて、介護計画の原案を作り、家族にも相談をし、カンファレンスの場で全員で検討し、結果をケアマネージャーがまとめるようにしているので、それぞれの意見が反映できている。</p>	
	16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとに見直しを行うとともに、状況に応じて臨機応変に対応をしている。</p>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人に対する入院中の支援を行ったり、外部に対しては、高校生のインターシップの受け入れ等を行ったり、出来る限り柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりそれぞれのかかりつけ医に受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師の応診体制が出来ないため、濃厚な医療的処置を要する人は事業所での対応は無理である旨、本人家族にはよく話をしている。しかし、事業所での看取りを希望される家族もいる所から、自然体で終わる場合の看取りも含めて、事業所としての指針を整理することを検討している。	○	ターミナルケアについて、指針を検討されているとの事なので、一人ひとりの尊厳が守られる指針を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者から職員に対しては常に注意を喚起し、守秘義務を遵守する誓約書を取るなどしており、現場においても、言葉使いなど、誇りを損ねるようなことのないように十分注意しあっている。書類は鍵付の書庫で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でくつろぎたい人はそのようにしてもらい、ゲームやカラオケなどの好きな人にはそのような場を提供するなど、一人ひとりのペースを大切にケアを心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに好物を取り入れたり、職員と一緒に食事をするようにしたり、片づけを一緒にするなど、食事が楽しめるように工夫しながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週に3回は入浴できる体制にしており、時間は本人の好きなときに入ってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔、俳句作りをたしなんでいた利用者の力を借りて俳句の会を作ったり、野菜作りをしたり、一人ひとりの力を生かした楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や、花見、足湯などに出かけたり、通院の帰りに買い物と一緒にいくなどの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	19:00に、外庭の門扉の鍵をかけるようにしているが、玄関や居室は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回火災を想定して避難訓練を行っており、地域の人々の協力も得られる体制が出来ている。	○	いつ、どの時間帯に起こるかわからない地震や水害等、火災以外の災害も想定した訓練も行われることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	担当者がそれぞれ記録をとり、夕食後に一日の食事や水分の摂取量をまとめて把握するシステムが出来ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節柄お雛様が飾ってあったり、利用者の作品が展示されていて、それぞれ思い思いにくつろぐことの出来る空間作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んでいたり、好きな本をたくさん並べてあったり、自分の部屋としての落ち着きが得られる工夫がされている。		